

チーム医療：褥瘡回診（褥瘡対策委員会）

—概要—

褥瘡対策委員会のメンバー構成は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、事務職の多職種で構成されている。褥瘡対策委員会は、2カ月に1度開催され院内の褥瘡対策指針・対策マニュアルの作成や修正を行なっている。また褥瘡回診チームを編成し、全病棟の回診、褥瘡患者管理に関する助言・指導を行っている。その他、体圧分散マットレス等の褥瘡発生予防器具の効率的な配置・使用、創傷被覆材料などの新規購入検討、院内研修に加え、日本褥瘡学会学術集会への参加研修を通して褥瘡対策のアップデートを行っている。

褥瘡回診は、毎週火曜日の午前中に医師・看護師・薬剤師・栄養士からなる多職種のメンバーで病棟回診を行っている。お互いの強みを生かしながら褥瘡を有する患者さんに対してよりよい医療が提供できるように協力している。回診の対象となる患者さんはNPUAP分類でI度以上の患者さんと医療機器関連圧迫創の患者さんとしている。頻回の排泄物による皮膚障害が発生した患者さんに対しても病棟から依頼があれば褥瘡回診時にラウンドし処置やケアについてアドバイスを行っている。褥瘡を有している患者さんの栄養に対しては栄養士が中心となりNST回診と連携を図っている。

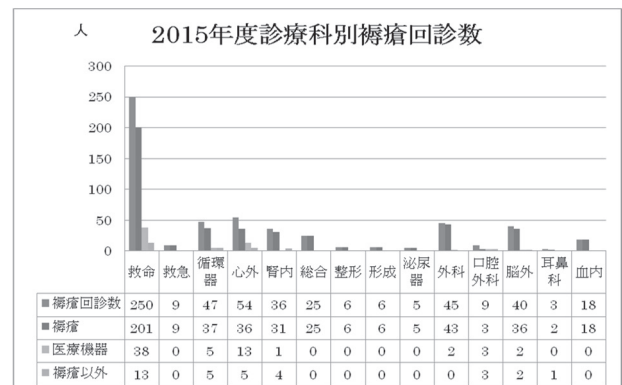
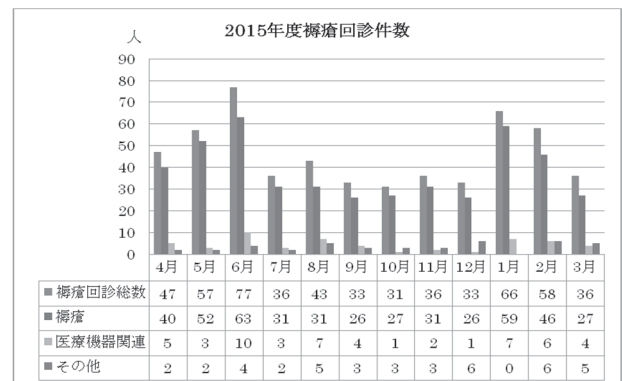
看護局の褥瘡・NST委員会と共同し、2012年度から継続して全病棟のエアマットの使用状況や修理状況の調査や体位交換用枕の在庫数および使用状況の調査を行った。また、2015年度は一般病棟の全病床とICU/CCU、E-ICUの一部、感染症センター、透析室のベースマットレスを体圧分散マットレスに交換した。最近のトピックスであるスキンケアのマニュアル作成を行った。



—実績—

2015年度褥瘡データ

延べ入院患者125,448人中、褥瘡回診対象者は延べ553名であった。(月別回診件数、診療科別の患者数はグラフを参照)2015年度褥瘡推定発生率は2.43%、褥瘡推定有病率は3.84%、医療機器関連圧迫創推定発生率は0.38%であった。調査日を第1火曜日(休日・回診中止の場合、翌日火曜日とする)とし対象患者は調査日の入院患者として算出する。



院外発表

2013年度より下痢に伴う皮膚障害の処方薬として取り組みを開始したカルメロースナトリウム含有ハスレン軟膏について第13回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会にて『カルメロースナトリウム含有ジメチルイソプロピルアズレン軟膏の調整と運用』について発表を行った。